

特 100

415

町村執務便覽加除錄



始



特100
415

凡例

本加除録ハ大正六年三月末日迄ノモノヲ掲ク其加除スヘキモノ左ノ如シ

加フヘキモノ		除クヘキモノ	
頁數	枚數	頁數	枚數
自〇〇至一六	三	自〇〇至一八	四
三三〇六	一	三三〇六	一
九二九四	二	九二九四	二
三三九三	三	三三九三	三
一四九二	三	一四九二	三
一五九一	一	一五九一	一
一九七二〇ノ二	三	一九七二〇ノ二	二
備考		備考	

四三六ノ一	四三六ノ二	四三六ノ三	四三六ノ四	四三六ノ五	四三六ノ六	四三六ノ七	四三六ノ八	四三六ノ九	四三六ノ一〇	四三六ノ一一	四三六ノ一二
四五三	四五三	四五三	四五三	四五三	四五三	四五三	四五三	四五三	四五三	四五三	四五三
五四四ノ一	五四四ノ二	五四四ノ三	五四四ノ四	五四四ノ五	五四四ノ六	五四四ノ七	五四四ノ八	五四四ノ九	五四四ノ一〇	五四四ノ一一	五四四ノ一二
六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五	六〇五
六六一	六六一	六六一	六六一	六六一	六六一	六六一	六六一	六六一	六六一	六六一	六六一
七二五	七二五	七二五	七二五	七二五	七二五	七二五	七二五	七二五	七二五	七二五	七二五
七八五	七八五	七八五	七八五	七八五	七八五	七八五	七八五	七八五	七八五	七八五	七八五
八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三	八四三
八五三ノ一	八五三ノ二	八五三ノ三	八五三ノ四	八五三ノ五	八五三ノ六	八五三ノ七	八五三ノ八	八五三ノ九	八五三ノ一〇	八五三ノ一一	八五三ノ一二
八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九
八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三
九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠	四六〇ヨリ四六六迄欠
四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五
四六六	四六六	四六六	四六六	四六六	四六六	四六六	四六六	四六六	四六六	四六六	四六六
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二

二、府縣郡ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三、府縣郡ヨリ補助金又ハ利益ノ保証ヲ受クル起業者

四、府縣郡ト土地物件ノ賣買贈與貸借若ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五、其ノ他府縣郡ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ントスル者

第七條 有給ノ府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ營業ヲ爲シ若ハ家族ヲシテ營業ヲ爲サシメ又ハ給料若ハ報酬ヲ得クヘキ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第八條 本令ニ於テ指揮監督者ト稱スルハ府縣吏員ニ付テハ府縣知事郡吏員ニ付テハ郡長ヲ謂フ

第九條 郡組合ノ吏員ニ關シテハ郡吏員ニ關スル規定ヲ準用ス

◎地方産業ニ關スル技師、産業組合主事、技手及産業組合主事補並試験場、講習所、種畜場、検査所及製造所職員ノ名稱、待遇、任免及官等等級配當ノ件

(明治三十九年十月 勅令第二百六十七號)

(沿革) 明治四三年六月勅令第二七二號、四四年五月同第一五七號、大正三年二月同第一六號、大正五年四月全八八號改正

第一條 本令ニ於テ地方産業ニ關スル技師、産業組合主事、技手及産業組合主事補並試験場、講習所、種畜場、検査所及製造所ト稱スルハ北海道地方費、府縣費又ハ郡市費ヲ以テ常置スルモノヲ謂フ

第二條 地方産業ニ關スル技師及技手ハ之ヲ農業技師、工業技師、林業技師、水産技師、農業技手、工業技手、林業技手及水産技手トス

第三條 試験場、講習所、種畜場、検査所及製造所ノ職員左ノ如シ

場長又ハ所長

技 師

技 手

書 記

場長又ハ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 地方産業ニ關スル技師及産業組合主事並試験場、講習所、種畜場、検査所及製造所ノ技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

地方産業ニ關スル技手及産業組合主事補並試験場、講習所、種畜場、検査所及製造所ノ技手、書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

第五條 前條奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免、奏薦及宣行ハ奏任官ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

第六條 技師及技手ハ特別ノ學術技藝アル者ヨリ之ヲ任用スヘシ

第六條ノ二 産業組合主事ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用スヘシ

- 一、文官任用令第五條第一項ノ規定ニ依リ高等文官トナルノ資格ヲ有スル者
- 二、帝國大學ヲ卒業シタル者

- 三、三年以上産業ニ關スル公務ニ從事シ月額五十圓以上ノ俸給ヲ受クル判任文官又ハ判任文官待遇以上ノ職ニ在リタル者

産業組合主事補ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用スヘシ

- 一、文官任用令第六條ノ規定ニ依リ判任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
- 二、産業組合主事トナルノ資格ヲ有スル者
- 三、三年以上産業ニ關スル公務ニ從事シタル者

第七條 地方産業ニ關スル技師、産業組合主事、技手及産業組合主事補、技手並試驗場、講習所、種畜場、検査所及製造所職員ノ官等等級ハ其俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等文官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

第三條 試驗場、講習所、種畜場、検査所及製造所ノ職員左ノ如シ

場長又ハ所長

技師

技手

書記

場長又ハ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 地方産業ニ關スル技師及産業組合主事並試驗場、講習所、種畜場、検査所及製造所ノ技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

地方産業ニ關スル技手及産業組合主事補並試驗場、講習所、種畜場、検査所及製造所ノ技手、書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

第五條 前條奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免、奏薦及宣行ハ奏任官ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

◎制 度

一四

第六條 技師及技手ハ特別ノ學術技藝アル者ヨリ之ヲ任用スヘシ

第六條ノ二 産業組合主事ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用スヘシ

- 一、文官任用令第五條第一項ノ規定ニ依リ高等文官トナルノ資格ヲ有スル者
- 二、帝國大學ヲ卒業シタル者
- 三、三年以上産業ニ關スル公務ニ從事シ月額五十圓以上ノ俸給ヲ受クル判任

文官又ハ判任文官待遇以上ノ職ニ在リタル者

産業組合主事補ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用スヘシ

- 一、文官任用令第六條ノ規定ニ依リ判任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
- 二、産業組合主事トナルノ資格ヲ有スル者
- 三、三年以上産業ニ關スル公務ニ從事シタル者

第七條 地方産業ニ關スル技師、産業組合主事、技手及産業組合主事補、技手並試驗場、講習所、種畜場、検査所及製造所職員ノ官等等級ハ其俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等文官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

奏任文官若ハ判任文官又ハ之ト同一ノ待遇ヲ受クルモノニシテ同時ニ地方産業ニ關スル技師、産業組合主事、技手、産業組合主事補又ハ試驗場、講習所、種畜場、検査所及製造所職員ニ任用セラレタル者ノ官等等級配當方ハ本官官等等級又ハ本務ニ於テ配當セラレタル官等等級ニ依ル
本令ニ依リ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

附 則

明治三十一年勅令第三百四十八號ハ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現ニ農事巡回教師、工業巡回教師、林業巡回教師及水産巡回教師ノ職ニ在ル者ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ農業技師、工業技師、林業技師及水産技師ニ、判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ農業技手、工業技手、林業技手及水産技手ニ各辭令ヲ用ヒス任セラレタルモノトス

◎制 度

一五

◎制 度

一六(二七、二八款)

(別表)

技師及産業組合主事官等配當表

奏	四等	年俸千八百圓 ヲ超ユルモノ	五等	年俸千五百圓 ヲ超ハ千八百圓 以下ノモノ	六等	年俸千二百圓 ヲ超ハ千五百圓 以下ノモノ	七等	年俸八百五十圓 ヲ超ハ千二百圓 以下ノモノ	八等	年俸七百五十圓 以上八百五十圓 以下ノモノ
---	----	------------------	----	----------------------------	----	----------------------------	----	-----------------------------	----	-----------------------------

技手、産業組合主事補及書記等級配當表

判	一 等	月俸六十圓ヲ超 ユルモノ	二 等	全四十五圓ヲ超 ヘ六十圓以下ノ モノ	三 等	全三十五圓以上 四十五圓以下ノ モノ	四 等	全三十五圓未滿 ノモノ
---	-----	-----------------	-----	--------------------------	-----	--------------------------	-----	----------------

記シ置クモノトス

第七條 保存年限經過ノ文書ハ廢棄スルモノトス

但其文書ハ之ヲ點檢シ尙保存ノ必要アルモノハ拔出シ又印章等他ニ使用ノ虞アルモノハ塗抹若ハ截斷シテ處分スヘシ

第八條 保存中ノ文書ハ蠹害豫防ノ爲メ毎年夏期ニ於テ風入ヲ爲スヘシ

第九條 保存年限ノ計算ハ會計ニ關スル分ハ會計年度ヲ以テシ其他ノ分ハ曆年ヲ以テスルモノトス
保存年限開始ノ期ハ簿冊使用濟ノ翌年若ハ翌年度トス

◎制 度

三

◎町村吏員職印彫刻式ノ件

(明治三十四年六月) 本府訓令第五十號

(沿革) 大正五年二月一日府訓令第二號ニテ一部追加

町村長、組合長、助役、收入役ノ職印ハ方六分(曲尺)トシ「何郡何町(村)長印」
「何郡何町(村)助役印」何郡何町(村)收入役印「何郡何町(村)外何ヶ町(村)學
校組合長印」(組合助役收入役印モ之ニ準ス)ト彫刻スヘシ

但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス又町村長カ納稅告知書、徵稅傳令書、
徵稅令書、納額告知書ニ專用スルモノ若クハ收入役力收入金ノ領收証ニ專用
スルモノニ限り知事ノ認可ヲ得テ本文ニ據ラサルコトヲ得

◎忌引内規ノ件

(明治三十二年二月六日知事官房)

今般當廳吏員除服命令期限左記之通内定相成候ニ付此段及通牒候也

父	方	母	方
高曾祖父母	養方トモ 二日	養方トモ遠慮	一日
高祖父母	全 四日	全	一日
祖父母	實方 六日	養方トモ	四日
父	養實方共 二十日	實方	四日
伯父母	養方トモ 四日	母 養實母共 二十日	二日
兄弟姉妹	實方トモ 四日	叔父母養方共 二日	二日
		離別女ハ實子 四日	四日
		妻有之他へ不嫁 四日	四日
		共服忌ナシ	

◎制 度

從弟	從弟	養方トモ	二日
嫡子	(七才未滿ハ)	遠慮一日	四日
末子	(七才未滿全)		二日
オイ 姪			二日
嫡孫、孫女、末孫	養方トモ		二日
曾孫曾孫女			二日
玄孫玄孫女			二日

備考

一、内定期限滿期ノ場合ハ經伺ノ手續ヲ省キ知事官房ヨリ直チニ本人ヘ除服辭令書交付ノコト

異父兄 弟姊妹	養實方共	二日
從弟 從弟女		二日
娘	(七才未滿遠慮 一日養方ニ致シ他ニ嫁スルモノトモ)	二日
オイ 姪		二日
孫、孫女、養方トモ		二日

- 一、内定期限伸縮ヲ要スル事情アルモノハ主務課長ニ於テ豫メ期日ヲ定メ認可ヲ受クルモノトス
- 一、父母ニ限り遠隔ノ地ニ在住ノ者ハ訃音ニ接シタル日ヨリ計算ス

市川市	市川市	市川市	市川市
市川市	市川市	市川市	市川市
市川市	市川市	市川市	市川市
市川市	市川市	市川市	市川市

市川市

市川市

◎市川市

◎制 度

第六、地盤ノ官有ニ屬スル道路堤防並木敷ニシテ郡町村若ハ水利組合ノ支辨ニ係ルモノ三ヶ月以内使用處分認可ニ關スル事

第七、水路溝渠又ハ日覆風除設置ノ爲メ地盤ノ官有ニ屬スル道路堤防敷使用又ハ其處分認可ニ關スル事

但知事ノ許可シタル水路溝渠新築改築ノ爲メ使用スルモノ及河川法施行區域内ニ係ルモノハ此限ニアラス

第八、郡町村又ハ水利組合起工ニ係ル河川堤防用悪水路溜池又ハ道路路敷トナリタル土地ヲ官有地ニ寄附受納ニ關スル事

第十、渡船場及渡船賃ニ關スル願ノ事

但國縣道ニ屬スルモノハ此限ニアラス

第十一、郡町村立學校及幼稚園職員ノ出張又ハ除服ヲ命スル事

第十二、郡町村立學校及幼稚園職員ニ慰勞金又ハ手當金ヲ給スル事

但奏任待遇ノ職員ニ係ルモノハ此限ニアラス

第十三、町村立小學校長及教員會社ノ社員役員トナリ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行ヒ若クハ營業ヲ爲スニ關スル認可ノ事

第十四、府社以下神社及寺院佛堂境内木竹手入伐採及枯損障害竹木採取ニ關スル事

ル事

第十五、府社以下神社及寺院佛堂境内土石切芝採取及樹根採掘ニ關スル事

第十六、府社以下神社及寺院佛堂所有境外山林雜木伐採ニ關スル事

第十七、府社以下神社及寺院佛堂境内一ヶ年以内使用並ニ取締ニ關スル事

但特別保護建造物ヲ有スル神社寺院佛堂境内ヲ公益ノ爲メニスル使用ハ此

限ニアラス

第十八、府社以下神社及寺院佛堂建物修繕ニ關スル事

但古社寺建造物修理規程ニ係ルモノハ此限ニアラス

第十九、府社以下神社及寺院佛堂什物取締ニ關スル事

第二十、府社以下神社遷宮願ノ事

第二十一、寺院開扉願ノ事

第二十二、府社以下神社ノ神職推薦命令ノ事

第二十三、府社以下神社ノ神職旅行願ヲ認可シ又ハ除服ヲ命シ諸届ヲ受理スル

事

第二十四、府社以下神社ノ神職寺院ノ住職交替事務受渡届ヲ受理スル事

第二十五、復氏改名願ノ事

第二十六、士族死跡相續延期願ノ事

第二十七、士族ヨリ平民籍へ編入ノ事

第二十八、郡書記ヲ以テ充ツル陸軍召集諸費分任出納官吏及其代理者命免ニ關

スル事

第二十九、郡書記ヲ以テ充ツル海軍召集諸費分任出納官吏及其代理者命免ニ關

スル事

第三十、漁業組合ノ經費分賦收入方法認可ノ事

第三十一、漁業組合ノ收支決算剩餘金ノ處分財産目錄事業報告ニ關スル届出並

經費收支豫算報告書受理ノ事

第三十二、森林開墾願ノ事

但淀川流域内山地砂防法指定地及軍港要港地域内ニ係ルモノハ此限ニアラ

ス

第三十三、賣藥請賣及行商願ノ事

第三十四、小學校ノ毎日ノ教授終始ノ時刻變更認可ニ關スル事 (四十五年五月

令第四十) 三十一日本府

四號追加)

第三十五、水難救護法施行細則第七條第二項及第三項ノ賃錢定率認可ニ關スル

事 (大正二年三月二十二日)

本府令第十六號追加)

- 一 但同一事項ニ付知事ノ許可ヲ受ケタルモノ及別途報告ヲ要スルモノヲ除ク
 - 二 郡會ノ議決
 - 三 郡會、郡參事會ノ議決又ハ選舉ノ取消及再議ニ付シタル事項並理由
 - 四 郡會ニ對スル各種ノ報告
 - 五 郡會ノ停會並理由
 - 六 郡會ノ委任ニ依リ爲シタル郡參事會ノ議決
 - 七 郡會ニ代テ爲シタル郡參事會ノ議決並理由
 - 八 訴訟、訴訟及和解ニ關スル郡參事會ノ議決
 - 九 財産及營造物ノ管理ニ關スル郡參事會ノ議決
 - 十 郡參事會ノ裁決、決定
- 但訴訟并又ハ異議申立書ノ謄本ヲ添付スヘシ

日商聯合會
大正二年一月十四日

十一 郡會ノ議決ヲ經サル各種ノ規定

但知事ノ許可ヲ要スルモノヲ除ク

- 十二 郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ郡長ニ於テ專決處分セシ事項並理由
- 十三 郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ郡長ニ於テ專決處分セシムル郡參事會ノ議決
- 十四 郡債ノ借入、償還(第一、二號樣式)
- 十五 町村會、公共組合會ノ議決又ハ選舉ノ取消並理由
- 十六 町村會、公共組合會ノ議決又ハ選舉ニ關シ指揮若クハ處分シタル事項並理由
- 十七 郡長ノ裁決
- 十八 但訴訟并書ノ謄本ヲ添付スヘシ
- 十八 町村收入役ノ認否並理由(第三號樣式)

- 十九 町村、公共組合ニ對スル強制豫算ノ命令竝理由
- 二十 町村、公共組合吏員ニ代テ執行シタル事件並理由
- 二十一 町村長、助役、收入役、副收入役故障アル場合ニ於ケル職務管掌
- 二十二 町村制第四百七十七條ニ依リ許否シタル事項並理由
- 二十三 町村、公共組合吏員ニ對スル懲戒處分並理由
- 二十四 事務ノ引繼ヲ拒ミタル町村及町村組合吏員ニ對シ科シタル過料處分ノ顛末
- 二十五 公共團體所有財産(第四號様式)
但報告期限ハ翌年度五月二十日限リトス
- 二十六 公共團體所有國債(第五號様式)
但報告期限ハ翌年一月十日限リトス
- 二十七 町村、水利組合(郡長管理ニ屬スル組合ヲ除ク) 歳入出豫算(第六、七號様式)

- 二十八 同上追加更正(第六、七號様式)
但報告期限ハ其年四月二十日限リトス
- 二十九 町村、水利組合(郡長管理ニ屬スル組合ヲ除ク) 歳入出決算(第六、七號様式)
但報告期限ハ翌年度三月三十一日限リトス
- 三十 町村税、公共組合費滯納處分狀況(第十號様式)
但報告期限ハ翌年度七月三十一日限リトス
- 三十一 町村税、水利組合費課率表(第十一、十二號様式)
但報告期限ハ通常豫算議決課率ハ其年四月三十日限リ、年度末現在課率ハ翌年度四月三十日限リトス
- 三十二 町村監督巡視調(第十二號ノ二様式)
但報告期限ハ翌年一月三十一日限リトス

計	郡長		郡書記		巡視 度數	巡視 十回以上	巡視 九回	巡視 八回	巡視 七回	巡視 六回	巡視 五回	巡視 四回	巡視 三回	巡視 二回	巡視 一回	巡視 未濟
	町村	水利組合	町村	水利組合												
町村																
水利組合																

備考

- 一、郡長郡書記同行シタルトキハ度數及回数共郡長欄ノミニ掲記スヘシ
- 二、巡視度數ハ數人同行ノ場合トイヘトモ一旅行ヲ以テ一度トシテ計算スヘシ
- 三、巡視濟内譯中ノ回数ハ數人同行ノ場合トイヘトモ一回トシテ計算スヘシ
- 四、巡視濟ト巡視未濟トノ計ハ町村又ハ水利組合ノ數ト一致スヘキセノトス
- 五、巡視未濟ノモノニ對シテハ其町村又ハ水利組合名ヲ備考ニ掲記スヘシ

(第十三號様式)

吏員異動報告

任命(退職)(死亡)	事由	職名	氏名
年 月 日			

備考

退職ノ場合ハ疾病其他退職ノ理由ヲ事由欄ニ詳記スヘシ

(第十四號様式)

第十四條 條例廢止報告

種別	許可年月日 番號	廢止年月日	廢止理由

(第十四條對左)

- ノ件
- 一、地方債借入ニ端金ヲ附セサルノ件……………四二五
- 一、起債決議書記載方ノ件……………四二六
- 一、起債ニヨリ土木工事ヲナス場合ニ設計書ヲ要セサルノ件……………四二七
- 一、起債稟請ニ關スル副申方ノ件……………四二九
- 一、市町村制中直接税間接税ノ種類……………四三一
- 一、戶籍法ノ規定ニ依リ納付スル手数料金額ノ件……………四三三
- 一、寄留簿閱覽謄本等ニ關スル手数料金額ノ件……………四三六
- 一、工場法ニヨル手数料ノ件……………四三六ノ一
- 一、耕地整理法ニヨル手数料ノ件……………四三六ノ二

◎財務目次

◎財務目次

一、家畜組合費ノ徴收ニ關スル件……………四三七

一、市町村ニ於テ維持スル公園地内使用及使
料ノ件……………四三六

一、公共團體ニ於テ使用料手数料等徴收上ノ便
宜ノ爲メ收入証紙發行ノ件……………四三九

一、公共團體ニ於テ使用料手数料等徴收上ノ便
宜ノ爲メ收入証紙發行ニ關シ注意方ノ件……………四四〇

一、郡市町村及公共組合出納檢閲規程……………四四二

一、郡市町村及公共組合出納檢閲ニ關スル通牒……………四四六

一、郡有財産台帳ニ關スル件……………四五二

一、郡ノ財務ニ關スル件……………四五三

一、郡費分賦ニ關スル件……………四五六

◎工場法

(明治四十四年三月廿九日法律第四十六號工場法抜萃)

第十六條 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若クハ工業主又ハ其ノ法定代理人若クハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍吏ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

參考

(大正五年九月一日京都府内務部長通牒五庶第四〇七一號(府公報))

本手数料ハ市町村長カ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戶籍ニ關シ証明ヲ與フルトキハ手数料ヲ徴收スルヲ得サルモ届出受理ノ証明書又ハ戶籍ノ謄本抄本ノ交付ヲ爲ス場合ハ手数料ヲ徴收スヘキモノナリ

◎財務

●耕地整理法ニ關スル手数料ノ件

(明治四十二年四月十三日法律第三十號耕地整理法拔萃)

第九條 耕地整理施行若クハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セントスル者又ハ整理施行者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所土地台帳所管廳市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但登記所又ハ土地台帳所管廳ハ必要アリト認ムルトキハ耕地整理組合ノ組合長組合副長又ハ臨時代理者以外ノ者ニ付其資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

●郡ノ財務ニ關スル件

(明治三十三年三月三十日府令第三十六號)

(沿革) 明治四二年府令第一六號、大正五年府令十八號改正

郡 一 般

本年三月内務省令第七號第二十六條ニ依リ郡ノ財務ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 財産ヨリ生スル收入其他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ

歳入歳出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條 各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツル

コトヲ得ス

第二條ノ二 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一、納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

二、隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ其發シタル日ノ屬スル年度

三、隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬ス

◎財 務

四五

三、ル年度但補助金寄附金借入金ノ類ハ其經費ノ屬スル年度ニ收入スルコトヲ得

第二條ノ三 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一、仕拂期日ノ一定シタルモノハ其日ノ屬スル年度

二、給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料費用辨償其他ノ給與傭人料ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

三、補助費缺損補填過誤納拂戻ノ類ハ其支出ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

四、通信運搬費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度似契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其支拂期日ノ屬スル年度

五、前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第四條 歳入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡トナリタル金額前金拂概算拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第五條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第四條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第六條 繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第七條 毎年度歳入歳出金ヲ出納スルハ翌年度六月三十日限リトス

第八條 郡ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後四ヶ月以内ニ完整スヘシ

第九條 歳入歳出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分ス

◎財 務

四五

第十條 歳入歳出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第十一條 特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其豫算ヲ調製スヘシ

第十二條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 郡ノ收入支出ニシテ命令ヲ發生スルコトヲ要スルモノハ郡長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員其他職員ニ於テ之ヲ發ス

第十四條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ概是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ郡參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第十五條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十六條 會計年度經過後ニ至リ歳入ニ不足ヲ生ジ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十七條 郡出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ郡長ニ於テ毎月例日ヲ定メ之ヲ検査スヘシ

郡出納吏交代シタルトキハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十八條 郡ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲メ郡金庫ヲ置ク

第十九條 歳入歳出ノ寡少ナル郡ニ在テハ郡金庫ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ郡金庫ノ職務ハ郡出納吏ニ於テ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二十條 郡金庫ハ郡役所々在地附近ニ之ヲ置クノ外郡長ニ於テ特ニ必要ト認ムル地ニ之ヲ置クコトヲ得

第二十一條 前項ノ場合ニ於テハ郡役所々在地附近ニ置クモノヲ郡本金庫トシ其他ノ地ニ置クモノヲ郡支金庫トス

第二十二條 郡本金庫ハ郡支金庫ヲ總轄ス

第二十三條 郡金庫事務ノ取扱ヲ爲スヘキ者ハ郡長之ヲ定ム

第二十四條 郡金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ郡長ノ許可ヲ得其責任ヲ以テ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十五條 郡金庫事務ノ取扱ヲナス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第二十條 郡金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ郡長ノ定ムル所ニヨリ担保ヲ提出スヘシ

第二十條ノ二 郡長ハ當該年度ノ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ニ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ郡ニ納付スヘシ

第二十一條 郡長ハ郡金庫ヲ監督シ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ検査シ又ハ必要ト認ムルトキハ臨機處分ヲ爲スコトヲ得

第二十一條ノ二 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規定ハ郡長之ヲ定ム

第二十二條 本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス

◎郡費分賦ニ關スル件

(明治三十五年四月
法律第四〇號)

郡制第九十條ニ依リ郡費分賦ノ割合ヲ定ムルニ當リ當該年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額前々年度ニ比シ四分ノ一以上ヲ増減スヘキ事故ヲ生シタル町村アルトキハ其ノ増減額ヲ加除シタル額ヲ以テ割合ヲ定ムヘシ

◎財務

四六〇（四六一ヨリ四六六迄欠）

國稅目次

- 一、國稅徵收法……………四六七
- 一、國稅徵收法施行規則……………四八四
- 一、國稅徵收法施行細則……………四九七
- 一、市町村ニ於テ領收シタル國稅金取扱方……………五三八
- 一、納額告知書ニ他ノ稅金ノ併記認可稟請ニ關スル件……………五三九
- 一、市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件……………五四〇
- 一、市町村交付金交付規定……………五四一
- 一、租稅其他ノ歲入金代用證券取扱ニ關スル件……………五四三
- 一、租稅其他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル件……………五四四

◎國稅目次

◎ 國 稅 目 次

- 一、國庫出納金端數計算法……………五四四ノ一
- 一、郵便官署歳入金取扱ノ件……………五四四ノ七
- 一、納稅告知ニ押捺スヘキ印章ノ件……………五四五
- 一、國稅月別納期一覽……………五四六
- 一、國稅金徵收ニ關スル帳簿書式……………五五一

◎ 國庫出納金端數計算法

(大正五年一月二十
九日法律第二號)

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其端數ハ之
ヲ切捨ツ其全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ

端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條 分割シテ收入又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ
準用ス

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又
ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入
金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニアラス

第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

◎ 國 稅

法律ニ別段ノ定アルモノ、外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六條 本法ハ北海道府縣都市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收
入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ
ナシ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ効力ヲ有ス

●國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル

命令ノ件

(大正五年三月三十一日勅令第五十六號)

國庫ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ國庫出納金端數計算法ヲ適用セス
一、切手及印紙類賣下代金

- 二、没入金沒收金及犯罪ニ基ク追徵金
- 三、法令ニ依リ當然國庫ニ歸屬スル收入金
- 四、貨幣交換差金
- 五、外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及支拂金
- 六、缺損及補填金
- 七、切手貯金拂込金

附 則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額
計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定

(大正五年三月三十一日大藏省令第二號)

◎國 稅

五四ノ四

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツ、
ヘキ國稅ヲ指定スル左ノ如シ

- 一、第一種所得稅
- 二、第三種所得稅
- 三、營業稅
- 四、相續稅
- 五、取引稅
- 六、取引所營業稅
- 七、鑛產稅

附 則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數
計算法準用ノ件

(大正五年八月二十二日
日勅令第二百九號)

第一條 國庫出納金端數計算法第六條ノ規定ニ依リ公共團體ヲ指定スルコト左
ノ如シ

郡 組合

市制第六條ノ市ノ區

北海道及沖繩縣ノ區

水利組合

北海道士切組合

朝鮮ノ地方費

朝鮮ノ府

朝鮮ノ學校組合

◎國 稅

五四ノ五

◎國 稅

五四ノ六

朝鮮ノ水利組合
臺灣ノ地方費區

第二條 國庫出納金端數計算法第六條ノ公共團體ノ收入及支拂中左ニ掲クル種

目ニハ同法ヲ準用セス

- 一、法令ニ依リ當然公共團體ニ歸屬スル收入金
- 二、貨幣交換差金
- 三、外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及支拂金
- 四、缺損補填金

附 則

本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎郵便官署歳入金取扱ノ件

(大正四年一月廿七日勅令第六號)

郵便官署ハ各官廳ノ徵收スル歳入金ノ受入及金庫所在在外ニ於テ仕拂ヲ要スル歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得其ノ範圍及取扱ニ關スル規定ハ遞信大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ施行ス

◎全 件

(大正四年一月二十八日大藏省令第一號)

第一條 大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ル歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ハ左ニ掲クルモノニ限ル
一、稅務署ノ直接徵收スル國稅金

◎國 稅

五四ノ七

- 二、北海道廳、府縣、稅務署、稅務監督局ノ收納スル國庫ノ諸收入金
- 三、收入官吏カ金庫ニ拂込ムヘキ前二號ノ收入金
- 四、市(區)町村カ金庫ニ送付スヘキ國稅金
- 五、金庫所在地外ニ於テ債主ニ仕拂ヲ要スル歳出金

第二條 歳入徵收官(分掌官ヲ含ム)以下全シハ其ノ在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル

納人ニ對シ前條第一及號第二號ノ國稅金又ハ諸收入金ヲ徵收セムトスルトキハ納人ニ對シ第一號書式ノ納稅告知書又ハ第二號書式ノ納入告知書ヲ發スルコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ郵便局ヲ特ニ指定スルコトヲ得

納人カ前項ノ道廳府縣管外ニ在ルトキハ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲ指定スヘシ但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ郵便局ヲ指定スルコトヲ得

歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル納人ニシテ當該道廳府縣管外ノ郵便局ニ歳入金ヲ納付セムトスルトキハ前項ヲ準用ス

第三條 國稅滯納者ニ對シテ督促狀ヲ發スル場合ニ於テハ第三號及第四號書式ノ納付書ヲ督促狀ニ添附スヘシ但シ收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第三號書式ノ納付書ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條 納人前二條ノ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ受ケタルトキハ現金ニ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第五條 收入官吏カ領收シタル收入金ハ第五號書式ノ現金拂込書ニ依リ所屬歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ出納官吏現金取扱規則第十五條及第十六條ノ規定ニ拘ハラヌ其ノ領收シタル金額ハ毎日之ヲ取纏メ翌日限拂込ムヘシ

第六條 市(區)町村ニ對シ稅務署ノ發付スル納額通知書ニ指定スヘキ國稅金ノ送付場所ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

◎ 國 稅

五四ノ一〇

市(區)町村ハ其ノ徵收シタル國稅金ニ第六號書式ノ送付書ヲ添ヘ前項指定ノ場所ニ送付スヘシ

第七條 郵便局ニ於テ納人又ハ市(區)町村ヨリ領收シタル國稅金又ハ諸收入金ニ付テハ歲入徵收官ハ取纏郵便局ヨリ送付スル領收濟通知書ニ依リ徵收簿ニ收入濟額ヲ登記スヘシ

第八條 收入官吏ハ第五條ニ依リ郵便局ニ拂込タル金額ハ金庫ニ拂込タル金額ト區別シテ現金拂込仕譯書ヲ作成シ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第九條 歲入徵收官ハ前條ノ報告ニ依リ徵收報告書現金拂込仕譯欄ニ登記シ又郵便局出納官吏ノ取扱ヒタル現金振替拂込仕譯ニ附テハ收入官吏ノ現金拂込仕譯ノ次ニ區別シテ登記スヘシ

第十條 中央金庫又ハ本金庫ハ取纏郵便局出納官吏ヨリ第七號書式ノ歲入金振替拂込書ニ歲入金振替證券ヲ添ヘ拂込ヲ受ケタルトキハ歲入ニ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

本金庫ハ前項ノ振替證券ニ依リ中央金庫ニ振替廻送ノ計算ヲ爲シ振替證券ハ之ヲ中央金庫ニ送附スヘシ

第十一條 中央金庫ハ前條歲入金振替証券ヲ爲替貯金局出納官吏ニ提出シ該証券金額ニ相當スル雜部金引出切符ノ交附ヲ受ケ本金庫ヨリ振替廻送受入ノ計算ヲ爲スヘシ

第十二條 仕拂命令官金庫所在地外ニ於テ債主ニ對シ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲナサシムトスルトキハ仕拂命令(仕拂請求書ヲニ何地郵便局ニ於テ支拂ヲ要スル旨ノ裏書ヲナシ金庫ニ送附シ其ノ翌日第八號書式ノ歲出金支拂通知書ヲ債主ニ送附スヘシ)

第十三條 金庫ハ前條ノ支拂命令ヲ受ケタルトキハ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲シタル上第九號書式ノ歲出金繰換拂渡票ヲ作成シ之ヲ指定拂渡郵便局ニ送附スヘシ

第十四條 金庫ハ取纏郵便局ヨリ各郵便局ニ於ケル繰替拂渡濟ノ歲出金支拂通

◎ 國 稅

五四ノ一一

◎國 稅

五四ノ三

知書並日計表正本ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ歳出金ノ計算及中央金庫ヨリ振替廻送ノ計算ヲ爲シ之ニ相當スル振換拂証書ヲ作成シ取經郵便局ニ送付スヘシ

第十五條 中央金庫ハ爲換貯金局出納官吏ヨリ前條振換拂証書ニ雜部保管金拂込書ヲ添ヘ振換拂込ノ請求ヲ受ケタルトキハ之カ振換ノ計算ヲ爲シ歳出ヲ取扱ヒタル金庫ニ對シ振換廻送拂出ノ計算ヲナスヘシ

第十六條 債主力歳出金支拂通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テ拂渡郵便局ニ提出スル亡失届書ヲ拂渡郵便局ヨリ廻附シタルトキハ金庫ハ明治三十八年大藏省令第三十九號第二條以下ノ例ニ依リ取扱フヘシ

附 則

本令ハ大正四年一月勅令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正四年三月一日ヨリ施行）
（様式省略）

◎京都府部府稅賦課規則

（明治四十年三月三十一日府令第二十號）

（沿革）

明治四一年府令第三一號、四三年同第二一號、四四年同第五〇號、同第七九號、四五年同第一五號、大正二年同第五三號、四年同第一號、同第一〇號、大正六年三月府令一〇號改正

第一章 總 則

第一條 府稅ノ賦課ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外此規則ニ依ル

第二條 府稅ノ賦課額ハ別ニ定ムル歳入豫算及課目課額ニ依ル

第二章 地 租 割

第三條 地租割ハ其課額ヲ折半シ毎年四月一日及十月一日現在ノ地租額ニ依リ納租者ニ賦課ス

地租割ヲ賦課スル期日前ニ荒地ト成リ其免租ノ處分カ期日後ニ涉リタル場合ニ於テ其中間ニ賦課徴收シタル地租割ハ此ヲ還付ス

◎府 縣 稅

六〇五

第三章 戶數割及家屋稅

第四條 戶數割ハ毎年四月一日及十月一日現在ニ依リ家屋稅ヲ賦課セサル町村ノ各戶(異爨同居者共)ニ賦課ス

家屋稅ハ毎年四月一日及十月一日現在ニ依リ別ニ定ムル町村ノ家屋所有者ニ賦課ス

家屋稅ヲ賦課スル町村ニ於テハ戶數(異爨同居者共)一戶ヲ一箇ト見做シ計算ス

第四條ノ二 戶數割及家屋稅ハ豫算總額ノ十分ノ六ハ豫算ノ屬スル前年度四月

一日現在ノ戶數又ハ箇數ニヨリ十分ノ四ハ前々年度ニ於ケル直接國稅府稅

(戶數割及家屋稅)ノ徵收額ニ依リ課率ヲ定メ之ヲ折半シテ賦課期日現在ニ

於ケル各町村ノ戶數又ハ箇數及及前々年度ニ於ケル直接國稅府稅ノ徵收額ニ乘シ其合算額ヲ以テ每期町村納稅義務者ノ負擔總額トス

町村會ハ每期其ノ町村納稅義務者ノ負擔總額ニ就キ四月十五日及十月十五日迄ニ戶數割ハ一定ノ標準ニヨリ家屋稅ハ家屋ノ種類、構造、坪數、敷地ノ等位ヲ標準トシ各自ノ課額ニ等差ヲ設ケルモノトス但シ各自ノ課額ニ等差ヲ設ケタル後賦課期日現在ニ於ケル戶數又ハ箇數ニ誤調ヲ發見シタルトキハ一戶又ハ一箇平均額ニヨリ其町村納稅義務者ノ負擔總額ヲ増減シ各自ノ課額ヲ變更スルモノトス

第四條ノ三 恤救規則ニヨリ救助ヲ受クル者ハ前條ノ戶數又ハ箇數ニ算入セス

前項ニヨリ控除シタル者ニ對シテハ戶數割ヲ賦課セス

第四條ノ四 左ニ掲ケル建物ニ對シテハ家屋稅ヲ賦課セス

一 私立學校幼稚園

一 公益法人ノ直接其用ニ供スル建物

但有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ對シテハ此限ニ在ラス

一 私人使用ノ建物

◎府 縣 稅

前項各號ノ外必要ト認ムル場合ハ町村會ノ議決ニヨリ其種類ヲ増加スルコトヲ得

第四章 營業稅及雜種稅

第五條 商業中十方劑以下ノ賣藥請賣專業者ハ四月一日現在ニヨリ其他年稅ニ係ル者ハ總テ其課額ヲ折半シ四月一日十月一日ノ現在ニヨリ月稅ニ係ルモノハ毎月一日ノ現在ニヨリ營業ニ在リテハ營業者ノ物件ニ在リテハ物件所有者ニ私法人使用建物ニ在リテハ使用ノ法人ニ行爲ニアリテハ行爲者ニ賦課ス但郡部外ノ者ノ所有ニ係ル船車(自轉車、自動車、自動自轉車トモ以下全シ)乘馬ヲ郡部内ノ者ニ於テ使用スル時ハ其物件ニ對スル雜種稅ヲ其使用者ニ賦課ス前項ノ期日後賣藥請賣方劑數寄寓藝妓數ヲ増加シ又ハ營業ヲ開始シ行爲ヲ爲シ物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業者物件所有者行爲者ノ郡部外ヨリ轉入シタル者ハ其事實發生ノトキ賦課ス
請賣賣藥數十一方劑以上トナリ又ハ湯屋船車私法人使用建物ノ噸數・間數、

石數、坪數並水車臼數ノ増加又ハ駄馬ヲ乘馬ニ大小車ヲ乙種牛馬車ニ私法人使用建物又ハ人力車、自動車ノ使用種類ヲ變更シ又ハ藝妓轉住若ハ年齡増加ノ爲稅額ニ異動ヲ來シタルトキハ其事實發生ノトキ當期分ノ差額ヲ賦課ス
營業稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ニシテ其翌年ニ至リ課稅標準低減ノ爲義務ヲ有セサルコト、ナリタル者ハ其事實發生ノトキ年額四分ノ一ヲ賦課ス

日稅ハ營業開始以前市場ハ每翌月一日(其月内廢業ノモノニ在リテハ其際)各其營業者ニ賦課シ筏ハ流出ノ都度筏主ニ賦課シ火葬場ハ每翌月一日ニ於テ場主ニ賦課ス但日稅ニシテ豫定額ニ對シ増減シタルトキハ追徵又ハ還附ス狩獵稅割ハ免許ヲ受ケタルトキ狩獵者ニ賦課シ所得稅ハ第二十七條ノ規定ニ依リ十月一日ノ現住者若ハ滯在者ニ賦課ス
鯽臺網類漁業稅ハ漁業ノ都度其漁業者ニ賦課ス
不動産取得稅ハ家督相續又ハ遺產相續ノ場合ヲ除クノ外所有權移轉ノ登記ヲ

◎府 縣 稅

◎府 縣 稅

六二〇

爲シタルトキ其取得者ニ賦課ス

第六條 同一人ニシテ數科目ノ營業ヲ爲シ又ハ商業中他類ヲ兼ネ又ハ數ヶ所ニ營業場ヲ有スルトキハ以下各條ニ於テ特ニ定ムルモノ、外其營業又ハ營業場毎ニ賦課ス但工業者ニシテ其製造品ヲ販賣製造場區域外ニ店舗ヲ設ケ小賣スルモノハ除クスルモノハ別ニ商業稅ヲ課セス

第七條 商業中十方劑以下ノ賣藥請賣ヲ專業トスルモノハ上リ金高ニ依ラス方劑數ニヨリ賦課ス

第八條 商業第二類、料理屋、飲食店ノ内二業以上ヲ兼ヌル者ハ各上リ金高ヲ合算シ其稅額ノ重キニヨリ賦課ス

第九條 遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、辯問、藝妓ノ内二業以上ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ重キモノ一箇ノミヲ課ス

第十條 營業者ニシテ行商ヲ爲シ又ハ一時出店ヲ爲シ若ハ集合出店ノ一場内ニ

支店ヲ設クル者ハ各其上リ金高ヲ本店ニ合算シ賦課ス

第十一條 本店ナクシテ行商ヲ爲ス者又ハ出店スルヲ業トスルモノハ各其上リ金高ヲ通算シテ賦課ス

第十二條 營業者ニシテ其翌年ニ至リ課稅標準増加ノタメ營業稅法ニヨリ納稅義務ヲ有スルコト、ナリタルモノハ年稅額四分ノ一ヲ減ス

第十三條 臨時ニ開設スル一時限リノ人寄席ニ對シテハ興業稅ヲ課シ同上遊技場ニ對シテハ商業稅ヲ課ス

第十四條 大堰川流通ノ筏ハ筏改所ヨリ上流船井郡吉富村大字鳥羽園部川落合迄ノ間ニ於テ解筏スルモノ及西高瀬川流通ノ筏ハ葛野郡朱雀野村大字土生ヨリ上流同郡太秦村大字嵯峨野ノ間ニ於テ解筏スルモノトイヘトモ總テ本稅ヲ課ス

第十五條 筏ニシテ一乗分以上ノ長幅アルモノハ更ニ其間數ニ達スル迄毎ニ一乗分ヲ賦課ス

◎府 縣 稅

六二一

第十六條 水車ニシテ二類以上ノ用途ヲ兼ヌルモノハ各種類毎ノ額ヲ賦課ス

第十七條 水車搗臼ニシテ一箇ノ臼ニ二箇以上ノ杵ヲ具フルモノハ杵一箇ヲ臼一箇ト看做シ賦課ス

第十八條 商業、工業、料理屋、飲食店、理髮人ノ等級ヲ定ムル上リ金高、貸附金高及漁業（鱒、臺網類、漁業ヲ除ク）採藻ノ上リ金高ハ左ノ區分ニ依ル

一 前年一月以前ヨリ引續キ營業セルモノハ同年一月ヨリ十二月迄一箇年分ノ額

一 前年十月以前ヨリ引續キ營業セルモノハ開業ノ月ヨリ同年十二月迄ノ分ヲ一箇年ニ積算セル額

一 前年十一月以降ニ開業シ引續キ營業セル者ハ開業ノ節見積リタル額

一 新規開業ノ者ハ總テ一ケ年ノ見積リ額但前年一月以降ニ於テ三ヶ月以上同業ヲ營ミタル者ハ其營業中ノ金高ヲ一ケ年ニ積算セル額

一 上リ金ノ卸賣ニ係ル分ハ其三分ノ一手數料、貸料、損料等ニ係ル分ハ其五倍ヲ以テ上リ金高トシ計算ス

但漁業採藻ハ此ノ限リニアラス

第十九條 前條營業者ニシテ年度内ニ於テ廢業ノ後再ヒ同業ヲ營ムトキハ前ノ等級ニ依リ賦課ス

第二十條 前條營業者ニシテ廢業ノ後其家族又ハ他人之ヲ繼續シ若ハ繼續ト認ムヘキ事實アルモノハ總テ本人ノ再開業ト看做シ前二條ニヨリ等級ヲ定ム

第三十一條 前條營業者ニシテ其上リ金高ノ申告ヲ爲サ、ル者又ハ營業ニ關スル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者又ハ上リ金高調査ニ際シ帳簿其他證書類ヲ隱蔽スルモノハ相當ト認ムル等級ヲ定メ賦課スルモノトス

第二十二條 商業第一類及工業ノ從業者ニ關シテハ國稅營業稅ノ例ニ依リ理髮人ノ助手ハ前年度中ノ事實ニ依ル其數一定セサルモノニアリテハ最モ多キトキノ數ニ依ル

所得ノ算定ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニヨル但所得稅法施行地以外ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債ノ利子、營業ニ非サル貸金、預金ノ利子國稅所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受クル配當金、俸給、給料、手當金、歳費、年金、恩給金ハ其收入額ノ豫算年額ニヨリ山林ノ所得ハ前年ノ所得ニヨル田畑ノ所得ハ前三年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ
前項控除スヘキモノハ種苗、蠶種、肥料ノ購買費家畜其他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其他ノ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其他收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但家事上ノ費用及之ト關聯スルモノハ之ヲ控除セス
第三項ニヨリ所得ハ山林ノ所得ハ除クヲ算定スルハ五月一日ノ現況ニヨル但九月三十日以前ニ於テ半額以上減損シタルトキハ十月一日ノ現況ニ依ル所得金額ノ申告ヲ爲サ、ル者又ハ所得金高調査ニ際シ事實ヲ隱蔽スル者ハ相當ト認ムル金高ヲ査定シ賦課スルモノトス

第二十八條 左ニ掲クルモノニハ各其營業稅又ハ雜種稅ヲ賦課セス

- 一 各自收穫ノ農產物林產物又ハ各自捕獲ノ魚鳥獸採藻等ヲ加工セス又ハ製糸、製茶、製炭若ハ草履、繩、苴、疊表等ノ單純ナル手工ヲ加ヘ開店セズ賣捌ク者
- 一 草履ノミチ小賣スル者
- 一 煙管仕替竝下駄直シヲ業トスル者
- 一 一定ノ工場又ハ製造所ニ定備ノ職工
- 一 新聞紙ヲ發行スル者
- 一 政府ヨリ發行スル印紙切手類ノ賣捌ヲ爲ス者
- 一 蹄鉄工ニシテ蹄鉄ヲ鍛造スル者
- 一 船車牛馬ヲ以テ自ラ旅客貨物ノ運送ヲ爲ス者
- 一 婦女子ニシテ衣服ノ裁縫、洗濯、機織ノ助手、金糸擦、鹿ノ子絞、其他俗ニ内職ト稱スルモノ但他人ヲ傭役スルモノハ除ク

◎ 府 縣 稅

- 一 理髮人ノ家族又ハ弟子等ニシテ其助手ヲ爲ス者
- 一 不具廢疾等ノ爲メ自用テ辨スルコト能ハサル遊藝師匠、遊藝稼人
- 一 遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、幫間、藝妓ニシテ年齡滿六十年以上ノ者
- 一 郡部外ニ於テ納稅義務ヲ果シタル期間ニ對スル遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優
- 一 倉庫船、水災豫備船、橋梁ニ代ヘ渡場ノミニ用フル船橋梁ノ組成ニ用フル船、航海中本船ニ屬スル傳馬船ノ類
- 一 官廳公署公立學校公立病院所屬ノ車、非常專用ノ車、鐵道軌道用ノ車、製造所又ハ鐵道停車場ノ如キ一構内ニ專用ノ車、神佛祭典用ノ車、育兒用ノ車
- 一 商品ニシテ使用セサル船車
- 一 官公用又ハ官公吏職務上飼用ノ乘馬
- 一 耕地糞灌用ノ水車
- 一 水車搗臼ノ容量一斗未滿一斗ノモノ及第三類ノ内糸線 (俗ニシツ又ハ稱フル) 若クハ之ニ類スルモノ
- 一 山夏川棚野川一本流シノ材木ニシテ北桑田郡地内ニ於テ陸揚ケスルモノ

- 一 西高瀬川筏ニシテ嵯峨村字下嵯峨地内ニ於テ解筏スルモノ
- 一 私法人使用建物ニシテ屋根ヲ設ケサルモノ又ハ一時ノ假建物
- 一 營利ヲ目的トセサル私法人ノ使用建物
- 一 國稅所得稅ヲ納ムル者所得參百圓未滿ノ者 第二十七條第三項合算ノ場合ニ於テ參百圓ニ滿ツルモノハ除ク
- 一 五月一日十月一日ノ兩日共郡部内ニ住所ヲ有シ若ハ滞在三ヶ月以上ニ及ヒタルモノニ非サル者軍人從軍中ニ係ル俸給扶助料及傷痍疾病者ノ恩給旅費、學資金及法定扶養料、法人ノ所得營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得、國稅所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及割賦賞與金、所得稅法施行地ニ於テ支拂テ受クル公債社債ノ利子ニ對スル所得稅
- 一 町村ノ一部ニ屬スル不動産ヲ無償名義ニ因リ其町村ニ移ス場合ニ於ケル所有權ノ取得

第五章 營業稅附加稅

第二十九條 營業稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタルトキ其納額ニ依リ納稅者ニ賦課ス

◎ 府 縣 稅

◎府 縣 稅

三〇(六二、六三、六四、六五)

郡部外ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其本稅ヲ分別シテ納メタル者ニ對シテハ郡部ノ内外ニ於ケル歩合ヲ定メ之ニ依リ賦課ス

第六章 鑛業稅附加稅

第三十條 鑛業稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタルトキ其納額ニ依リ納稅者ニ賦課ス

第七章 所得稅附加稅

第三十一條 所得稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタル時其稅額ニ依リ納稅者ニ賦課ス郡部外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業ノ所得ニシテ其本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シテハ郡部ノ内外ニ於ケル歩合ヲ定メ之ニ依リ賦課ス

第八章 賣藥營業稅附加稅

第三十一條ノ二 賣藥營業稅附加稅ハ其本稅ノ納稅告知書ヲ發シタルトキ其稅額ニ依リ納稅者ニ賦課ス

附 則

第三十二條 此規則ハ明治四十年度ヨリ施行ス

◎京都府郡部營業稅雜種稅課目課額

(明治三十六年一月二十日) 告示第二十八號

(沿革) 明治三八年告示第一〇八號、四〇年全第一四〇號、四一年全第二六八號、四三年全第七〇號、四四年全第一四八號、全第一九五號、全第二〇四號、大正四年全第一號、全第一〇〇號、大正六年三月告示一二四號改正

營業稅

商 業

第一類 第二類 第三類
除クノ外諸商業

一等 一ヶ年 上リ金高 貳千圓未滿 年稅 金 拾貳圓

以上五百圓未滿ヲ加フル毎ニ金參圓ヲ增加ス
二等 全 千五百圓未滿 同 金 九圓

◎府 縣 稅

表一

◎府縣稅

六三

三等	全	千	圓未滿	同	金	六	圓
四等	全	七百	圓未滿	同	金	四	圓
五等	全	五百	圓未滿	同	金	參	圓
六等	全	四百	圓未滿	同	金	貳	圓
七等	全	參百	圓未滿	同	金	壹圓五十錢	
八等	全	貳百	圓未滿	同	金	壹	圓
九等	全	百	圓未滿	同	金	參	十錢

但各等トモ從業者（職上勞役者及七等以下ハ營業主以外ノ從業者ヲ除ク）一人ニ付金壹圓ヲ增加ス

第二類 旅宿業 木錢宿及牛馬宿ヲ除ク

一等 一ケ年上リ金高 七百圓未滿 年稅 金二十 二圓

以上參百圓未滿ヲ加フル毎ニ金參圓ヲ增加ス

工

二等	全	四百	圓未滿	同	金	九	圓
三等	全	參百	圓未滿	同	金	七	圓
四等	全	貳百	圓未滿	同	金	五	圓
五等	全	百	圓未滿	同	金	參	圓

一等 一ケ年上リ金高 貳千圓未滿 年稅 金十 貳圓

以上五百圓未滿ヲ加フル毎ニ金參圓ヲ增加ス

◎府縣稅

六三

二等	全	千五百	圓未滿	同	金	九	圓
三等	全	千	圓未滿	同	金	六	圓
四等	全	七百	圓未滿	同	金	四	圓
五等	全	五百	圓未滿	同	金	參	圓
六等	全	四百	圓未滿	同	金	貳	圓
七等	全	參百	圓未滿	同	金	壹圓五十錢	

◎府縣稅

六四

八等 全 貳百圓未滿 同 金壹圓
 九等 全 百圓未滿 同 金參十錢
 但各等トモ從業者（職上勞役者及七等以下ハ營業主以外ノ從業者ヲ除ク）一人ニ付金壹圓ヲ增加ス

雜種稅

料理屋

一等 一ヶ年上リ金高 七百圓未滿 年稅 金十參圓
 以上參百圓未滿ヲ加フル毎ニ金參圓ヲ增加ス
 二等 全 五百圓未滿 同 金十圓
 三等 全 參百圓未滿 同 金八圓
 四等 全 貳百圓未滿 同 金六圓
 待合茶屋 年稅 金五圓

芝居茶屋

遊船宿

飲食店

一等 一ヶ年上リ金高 七百圓未滿 年稅 金十三圓
 以上參百圓未滿ヲ加フル毎ニ金參圓ヲ增加ス

湯屋

二等 全 五百圓未滿 全 金十圓
 三等 全 參百圓未滿 全 金七圓五十錢
 四等 全 貳百圓未滿 全 金五圓
 五等 全 百圓未滿 全 金貳圓五十錢
 一等 湯壺二坪以上 年稅 金八圓
 二等 全 一坪以上 全 金六圓
 三等 全 一坪未滿 全 金四圓五十錢

◎府縣稅

六五

◎府縣稅

六六

理髮人

一等 一ヶ年上リ金高 五百圓未滿 年稅 金 八圓
 以上五百圓未滿ヲ加フル毎ニ金貳圓ヲ増加ス

二等 全 參百圓未滿 全 金 六圓

三等 全 貳百圓未滿 全 金 四圓五十錢

四等 全 百圓未滿 全 金 貳圓五十錢

但各等トモ助手アルモノハ助手一人ニ付金壹圓貳十錢ヲ増加ス

遊藝師匠 月稅 金 壹圓貳十錢

遊藝稼人 全 金 壹圓八十錢

相撲 全 金 六十錢

俳優 全 金 壹圓八十錢

幫間 全 金 參圓六十錢

藝妓

藝妓

一等地 貸座敷營業地域中伏見中書島、猪崎、宮津新濱、舞鶴朝代町、新舞鶴龍宮、加津頁及峯山町 月稅 金 五圓

二等地 一等地以外ノ地域 全 金 四圓五十錢
 但各等地共年齡十三歳未滿ノモノハ半額トス

酌婦 藝妓娼妓以外ノ婦女ニシテ客ノ酒席ニ出ツル者但貸座敷、料理屋、飲食店營業者及其同居家族カ其營業場ニ於テスルモノハ除ク 月稅 金 六十錢

市場

定小屋 日稅 棧數 十八枚代
 木戶錢 三十六人分

◎府縣稅

六七

◎府縣稅

六〇

短艇	一艘二付	年稅	金壹圓五拾錢
馬車二正立以上	一輛二付	年稅	金拾貳圓
馬車一正立	全	年稅	金八圓
人力車二人乘 (橫巾内法 二尺以上)	一輛二付	年稅	金七圓五拾錢
自用	全	年稅	金參圓七拾錢
營業用	一輛二付	年稅	金五圓
人力車一人乘 (橫巾内法 二尺未滿)	全	年稅	金貳圓五拾錢
自用	一輛二付	年稅	金七圓
營業用	全	年稅	金七圓
荷積牛馬車	一輛二付	年稅	金七圓
荷積大小車 牛馬車、手先車 一輪車外ノ荷車	一輛二付	年稅	金七圓

手先車	全長八尺以内	一輛二付	全	年稅	金壹圓八十錢
一輪車	一輛二付	全	年稅	金壹圓貳十錢	
水車	一輛二付	全	年稅	金六十錢	

第一類 搗臼	甲 容量二斗未滿	一臼二付	年稅	金三十錢
	乙 同 二斗以上	同	年稅	金六十錢
第二類 挽臼	同	一箇二付	同	金壹圓八十錢
第三類 第一類第二類外ノモノ	但私法人所有ノモノハ	一ヶ所二付	同	金五圓五十錢
乘馬	農馬、駄馬ニ乗鞍ヲ 附シ乗用スルモノ共	一ヶ所二付	同	金貳十五圓
漁業採藻		一頭二付	年稅	金五圓

◎府縣稅

六一

◎府縣稅

六三

甲 水産動植物ヲ採捕
又ハ養食スル營業

年稅

金五十錢上リ金高千分ノ二
但漁業法ニヨリ免許ヲ受
ケタル漁業ヨリ生スルモ
ノハ千分ノ五

乙 御臺網類漁業

上リ金高 千分ノ四

但一漁期間ニ於ケル上リ金高壹萬圓ヲ超過スルトキハ其超過額ニ對シテハ
壹萬圓迄ハ其千分ノ六トシテ以上壹萬圓迄ヲ増ス毎ニ順次千分ノ二ヲ遞加
ス

筏

大堰川筏

材 木 筏

一乘 (巾二間長二
十八間以内) 二附

稅金參圓貳十錢

竹 筏

一乘 (全 上) 二附

稅金八十錢

板 筏

一乘 (巾一間長六
間以内) 二附

稅金壹圓

清瀧川筏

材 木 筏

一乘 (巾九尺長二
十間以内) 二附

稅金壹圓四十五錢

竹 筏

一乘 (全 上) 二附

稅金貳十五錢

西高瀬川筏

材 木 筏

一乘 (巾五尺長十
四間以内) 二附

稅金七十七錢

竹 筏

一乘 (全 上) 二附

稅金貳十五錢

由良川、棚野川筏

材 木 筏

北桑田郡宮島村由良用棚野川落合ヨリ上流ニ於テ解筏スルモノ

一乘 (巾八尺長十
六間以内) 二附

稅金八十錢

全所ヨリ下流ニ於テ解筏スルモノ

一乘 (幅二間長二
十八間以内) 二附

稅金壹圓五十錢

◎府縣稅

六三

◎府縣稅

六七

板 筏

北桑田郡宮島村由良川棚野川落合ヨリ上流ニ於テ解筏スルモノ

一乘(幅一間長)ニ付 稅金參十五錢

全所ヨリ下流ニ於テ解筏スルモノ

一乘(幅一間長)ニ付 稅金六十五錢

一本流シ

材 木

一本ニ付 稅金 貳 錢

スリツバ

一板ニ付 稅金 壹 錢五厘

帆 船

日本形積石五十石上船

一石ニ付 年稅金 六 錢

日本形ニスラサル帆裝船

一噸ニ付 全 金五十錢

西洋形海蒸氣船

一噸ニ付 全 金參十錢

火 葬 場

上り金高 百分ノ 六

自 轉 車

一輛ニ付 年稅 金貳圓五十錢

私法人私用建物

第一類 事務所、營業所、工場(煉瓦製造所)ヲ除ク倉庫ノ類ニシテ木造ニア

ラサルニ階建以上ノモノ

一坪ニ付 年稅 金二十七錢

第二類 全上ニシテ木造ニアラサル平家建ノモノ並ニ木造ノ二階建以上ノモノ

全 金二十三錢

第三類 全上ニシテ木造平家建ノモノ

全 金十八錢

第四類 納家、煉瓦製造場、鐵道停車場其他ノ建物

全 金十二錢

狩獵稅割

◎府縣稅

六五

●府縣稅

六七

狩獵法第十一條

一等ニ該當スルモノ	國稅額壹圓ニ付	金拾參錢
二等ニ該當スルモノ	同上	金拾參錢
三等ニ該當スルモノ	同上	金拾錢

所得稅

自動自轉車	一輛ニ付	年稅	金五圓
自動車	一輛ニ付	年稅	金五圓

四人乗以上

自用	一輛ニ付	年稅	金參拾圓
營業用	全	年稅	金拾五圓

三人乗以下

自用	全	年稅	金貳拾圓
營業用	全	年稅	金拾圓

代書人

一等	地方裁判所區裁判所ニ提出スル書類ヲ代書スルモノ	一人ニ付	年稅	金五圓
二等	區裁判所出張所ニ提出スル書類ヲ代書スルモノ	全	年稅	金參圓
三等	其他	全	年稅	金壹圓

●大正四年二月告示第百號前文

明治三十六年一月京都府告示第二十八號郡部營業稅雜種稅課目課額中左ノ一項ヲ追加シ大正四年度ヨリ向五箇年度間施行ス

不動産取得稅

登録稅課稅標準價格ノ千分ノ五

●府縣稅

六七

◎府縣稅

六六

●府稅戶數割錢位ニ止ムヘキ件

(明治三十五年四月
本府訓令第二十九號)

府稅戶數割各戶ノ課額ニ等差ヲ設クル場合ハ錢位ニ止ムヘシ

◎京都府郡部府稅徵收期限

(明治四十年三月三十日)
告示第四百四十一號

(沿革)

明治四一年告示第二九五號、四四年同第一九六號、四五年同第一五一號、大正四年同第一〇一號改正、大正三年同四五七號追加、大正六年三月告示一二六號改正

一 地租割、雜種稅、營業稅

四月一日現在ニ依リ
賦課スルモノ
十月一日現在ニ依リ
賦課スルモノ

四月三十日限
十月三十一日限

一 戶數割、家屋稅、

四月一日現在ニ依リ
賦課スルモノ
十月一日現在ニ依リ
賦課スルモノ

四月三十日限
十月三十一日限

一 營業稅、雜種稅ノ内毎月一日現在ニ依リ
賦課スルモノ

毎月十日限

一 雜種稅ノ内日稅

賦課ノ當日限

◎府縣稅

七五

◎府縣稅

七六

一同 所得稅 年額二分ノ一
全

十二月二十日限
二月二十八日限

一營業稅附加稅 郡部ノ内外ニ於ケル歩合ヲ
定メテ賦課スルモノハ除ク

本稅ト同時

一鑛業稅附加稅 郡部ノ内外ニ於ケル歩合ヲ
定メテ賦課スルモノハ除ク

本稅ト同時

一所得稅附加稅 郡部ノ内外ニ於ケル歩合ヲ
定メテ賦課スルモノハ除ク

本稅ト同時

一賣藥營業稅附加稅

本稅ト同時

一前各項以外者及脫稅ニ係ル者ハ徵稅令書發付ノ日ヨリ十日限
右期限日擢日又ハ大祭日、祝日ニ當ルトキハ其翌日トス

◎罹災救助資金補助規程

(明治四十年十二月二
十七日府令第七十號)

第一條 市町村ニ於テ罹災救助ノ方法並其資金蓄積ニ關スル條例ヲ設ケ罹災救
助資金ヲ蓄積スルトキハ其蓄積額十分ノ五以内ノ補助金ヲ交附ス但壹ケ年度
ノ蓄積額其市町村ノ戶數ニ應シ一戶當市ニ在リテハ金五錢町村ニ在リテハ金
貳十錢ニ滿タサルモノニハ補助セス

第二條 貯蓄シタル罹災救助資金ノ額其町村ノ戶數ニ應シ一戶當市ニ在リテハ
金七十五錢町村ニ在リテハ金參圓ニ達シタルトキハ補助ヲ停止ス

第三條 基金法第三條ノ制限額ヲ下リタル場合ニ於テハ再ヒ制限額ニ達スルニ
至ル迄ノ間補助ヲ中止スヘシ

第四條 補助金ハ蓄積シタル翌年度ニ於テ交附ス

附 則

第五條 此規則ハ明治四十年度ヨリ施行ス

◎府縣稅

八三

(參考)

◎本規定ノ解釋

(大正三年四月二十四日(府公報)三庶第)
(一七〇三號内務部長ヨリ各郡長へ通牒)

町村ニ於ケル罹災救助資金補助規定第一條及第二條ニ所謂一戸當金額ハ共ニ府ノ補助金ヲ算入セサル蓄積額ヲ指シタル義ニ有之候處往々誤解ノ向有之處理上差支候條爾後右ニ據リ申請セシメラレ度爲念此段及通牒候也

◎耕地整理費補助規則拔萃

(明治四十三年十月二十)
八日府令第七十六號

(沿革) 大正二年府令第六九號、大正五年九月府令五五號改正

第一條 整地耕理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル者ニハ本則ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス但當該年度ノ豫算ニ不足ヲ生シタル場合ハ次年度以後ニ於テ交付スルコトアルヘシ

第二條 補助金ハ工事竣成後實地検査ノ上其費用ヲ審査シ左ノ各號ノ率ニ依リ之ヲ決定ス

- 一 五町歩以上ノ開墾、湖海ノ埋立、干拓及開田ヲ爲ス地目變換ヲ行フモノ
- ニ 付其部分ニ屬スル設備又ハ工事費ニ對シ其費用ノ百分ノ三十以內
- 三 溜池、隧道、井堰、水門、暗渠排水、底幅六尺以上ノ河川ノ變更廢置又ハ揚水機ノ設置ニ關スル設備若ハ工事費ニ對シ其費用ノ百分ノ二十五以內

◎各種補助

大正三年四月二十四日(府公報)三庶第(一七〇三號)

◎各種補助

七六六 (七六七、七六八、七六九、七九〇、七九二欠)

三 前號以外ノ設備若ハ工事費ニ對シ其費用ノ百分ノ二十以内
第三條 補助金ハ工事竣成シタル年度ニ於テ之ヲ交付ス
ニケ年度以上ニ交ル繼續工事ニ在リテハ前年六月一日ヨリ其翌年五月三十一
日ニ至ル期間内ニ於テ竣成シタル部分ニ對シ當該年度ニ於テ之ヲ交付スルコ
トヲ得

第四條 知事ニ於テ補助ノ必要ナシト認ムルモノニ對シテハ補助金ヲ交付セス

第五條 補助金ヲ受クル工事ニシテ不備ノ点アリト認メタルトキハ其補修又ハ

改築ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於ケル工事費ハ耕地整理施行者ノ負擔トス (以下略ス)

◎農林管野費補助規則

八日附令第一〇六號

第一條 農林管野費補助規則ハ農林管野費補助金ノ交付ニ關スルニシテ
第二條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第三條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第四條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第五條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第六條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第七條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第八條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第九條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス
第十條 農林管野費補助金ハ農林管野費補助金交付規則ニ依リて交付ス

◎各種補助

◎樹苗圃ノ補助規則

◎各種補助

表二

●樹苗圃及植樹補助金交付規則

(明治四十一年三月三十一日)
告示第四百七十七號

(沿革) 明治四十四年告示第一二二號、大正四年同第一一四號改正

第一章 總 則

第一條 樹苗圃ヲ設置シ又ハ植樹ヲ爲シタル者ニハ本則ニ依
リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ヲ受ケントスル者ハ書式第一號又ハ第二號ニ
依ル補助申請書ヲ前年六月三十日迄ニ知事ニ差出スヘシ
事業ヲ廢止シ若クハ中止シ又ハ計畫ヲ變更シタル時ハ其要
領及理由ヲ具シ遲滯ナク知事ニ届出ツヘシ

第三條 事業ノ執行ハ知事及當該官吏吏員ノ指揮監督ヲ受ケ
其指揮ヲ拒ムコトヲ得ス

雜

- 一、神社祭式拔萃……………八五二ノ一
- 一、神社會計ニ關スル件拔萃……………八五二ノ三
- 一、府縣社以下神社ノ神饌幣帛料ノ供進ニ關スル件……………八五三
- 一、府縣社郷社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額八五四
- 一、徴兵旅費繰替支辨ニ關スル件……………八五六
- 一、徴兵旅費繰替支辨ノ件施行ニ關スル規則……………八五七
- 一、徴兵旅費拂戻請求手續……………八五九
- 一、公立學校職員俸給支給細則……………八六二
- 一、小學校教員俸給旅費其他給與並其ノ支給方法八六五
- 一、市町村立小學校代用教員ノ俸給旅費其他諸……………八六六

● 雜 目 次

給與ニ關スル規程	八七四
一、町村統計調書編綴目次ノ件	八七七
一、寄付者賞與方上申ノ件	八七九
一、利息制限法	八八三
一、閏年ニ關スル件	八八四
一、郵便貯金利子ノ割合	八八五
一、郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ証券ノ種類	八八六
一、全 上 料 金 ノ 件	八八七
一、行旅病人行旅死亡人取扱心得	八九〇
一、内國旅費規則拔萃	八九八
一、民勢調査ヲ拒ミ妨害スル者處罰ノ件	九〇〇

● 神社祭式拔萃

(大正三年三月
内務省令四號)

第二、府縣社以下神社祭式
官國幣社祭式ニ準ス 但祝詞ハ左ノ如シ(祝詞省署)

一、大 祭 式

祈年祭、新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次幣帛供進使參進 是ヨリ先手
次幣帛供進使所ニ著ク
次修祓先御幣物次幣帛
次幣帛供進使所定ノ座ニ著ク
次御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク 幣帛供進使
次宮司諸事傾備セル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

● 雜

次宮司御屏ヲ開キ畢リテ側ニ候ス 此間奏樂
 次禰宜以下神饌ヲ供ス 此間奏樂
 次宮司祝詞ヲ奏ス
 次幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク 案ハ豫メ便宜
 次宮司御幣物ヲ奉ル
 次幣帛供進使祝詞ヲ奏ス
 次幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮 玉串ハ隨員
 次幣帛供進使隨員拜禮
 次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮 玉串ハ主典
 次權宮司若クハ禰宜以下拜禮 之ヲ附ス
 次權宮司若クハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス
 次禰宜以下神饌ヲ撤ス 此間奏樂
 次宮司御屏ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂
 次宮司祭儀畢レル由チ幣帛供進使ニ申ス
 次各退出

◎ 府社以下神社會計ニ關スル細則拔萃

(大正二年二月十四日 府訓令第九號)

第一章 登 録 (省令)

第二章 管 理 (省令)

第三章 府社會計 (指定神社ハ府社ノ規定ヲ準用ス)

第九條 收支豫算ハ別記様式ニ依リ調製シ郡區長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セ
 シトストキ亦同シ

第十條 收支決算並資金明細書ハ別記様式ニ依リ二通ヲ作り郡區長ニ報告スヘ
 シ
 郡區長ハ七月三十一日迄ニ其一通ヲ知事ニ提出スヘシ

第十一條 會計帳簿ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ

	第一目神饌費				
合	計				

(以下略)

備考

- 一、本表ノ外必要ニ依リ科目ヲ増置スルコトヲ得
- 一、科目ニ該當ノ事實ナキトキハ其科目ヲ省キ漸時繰上クヘシ
- 一、備考ニハ増減ノ事由ヲ記載スヘシ
- 一、決算ハ本様式ニ準シ何年度豫算ヲ何年度決算前年度豫算ヲ何年度豫算ト改メ表末ニ備考ヲ設ケ「收支差引殘金何圓ハ(翌年度へ繰越ス)(基本財産ニ編入ス)」ト記スヘシ
- 一、資金ニ對スル寄附金ノ受入レハ本豫算ニ編入セス別ニ之ヲ整理スヘシ

收入

支出

一、氏子又ハ崇敬者ノ齎出金ニシテ用途ノ指定セラレタルモノハ用途指定寄附金トシテ整理シ用途ノ指定セラレサルモノハ社入金中第一目氏子及崇敬者齎出金トシテ整理スヘシ

一、雇員給ハ俸給ニ社僕及臨時傭人ノ給料ハ傭人料ニ豫算スルモノトス

何年度何資金現金明細書

受	區	分	金	額
	前年	年度	越	高
	本年度	積立	(寄付)	
	何公債	證書	當	銭元金
	公債	利	子	

現在	拂				計	預金	利子
	現	何	經費	何公債證書額面何程買入			
何所預金	金	々	へ繰入	何公債證書額面何程賣拂	計	々	

備考

一、前年度越高ニハ前年度現在ノ現金及預金ヲ記載スルモノトス

計	受		區	分	額面種類	枚	數	額面合計
	前越	年度高						
	何々公債	何債券			圓			
	何公債買入							

何年度何資金有價証券明細書

備考

- 一、本簿ニハ經費一切ノ收入支出ヲ記載スルモノトス
- 一、收入ノ内社入金ハ社入金收入簿當日ノ計ニ依リ記入シ其他ノ收入及資金ヨリ繰入ル、モノハ直ニ本簿ニ記入スヘシ
- 一、經費支拂額ハ經費支出簿社費及營繕費當日ノ支拂高ヲ合セテ記入スルモノトス
- 一、毎月計ヲ付シ翌月ヨリ通計ヲ付スヘシ

何年度社入收入簿

年 月 日	摘 要	金 額
大正二年四月一日	守札五體授興料	五〇〇
同 日	氏子贖出金	一〇〇〇

備考

- 一、本簿ハ收入第二欸第三項社入金ニ屬スル收入ヲ記載スヘシ
- 一、摘要欄ニハ收入ノ事由ヲ可成詳細ニ記入スヘシ
- 一、毎日計ヲ付シ毎月合計及通計ヲ付スヘシ

何年度經費支出簿

同 日	神饌料	同 日	不用品賣拂代	計	合計	通計
				一〇〇〇	一三〇〇	、、、

社費支出		豫算		支出額		豫算殘額	
目	年月日	備	要	支出額	豫算殘額		
神	大正三年三月十日	神酒外何点代何某へ拂		四五〇〇			
俸	同	社司何某四月分俸給拂		一〇〇〇〇			
備	同	社僕何某四月分給料拂		五〇〇〇			
消	同	木炭何俵代何某拂		五八〇〇			
計				二五三〇〇	二七四七〇〇		
合	計			、、、	、、、		
通	計			、、、	、、、		

備考

一、本簿ハ各項毎ニ記載整理スルモノトス
 一、支拂一件毎ニ物品、數量、渡先等ヲ記入シ其上欄ニ當該ノ目ノ符號ヲ記
 スヘシ
 一、毎日計ヲ付シ毎月合計及通計ヲ付スヘシ

何年度何資金現金出納簿

年月日	備	要	受	拂	現金	預金	殘
大正二年四月一日	前年度越	高	一〇〇〇〇〇	一	一	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
全六月一日	四分利公債証書百圓ニ對スル利子		二〇〇〇	一	一	一〇二〇〇〇	一〇二〇〇〇
同 二 日	經費補充トシテ經費へ繰入ル		一	二〇〇〇	一	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
計			一〇三〇〇〇	二〇〇〇	一	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
通			、、、	、、、	一	、、、	、、、

備考

- 一、預金ノ預入拂戻ハ受拂ノ欄ニ記入セス残ノ欄ニ實際ノ保管ニ應シ區分記載スヘシ
- 一、資金ノ支出ハ拂ノ欄ハ經費ヘ補充ト記シテ一般ノ經費ニ移スヘシ
- 一、毎月計ヲ付シ翌月ヨリ通計ヲ付スヘシ
- 一、本簿ハ成ルヘク一冊トシ口座ヲ設ケテ區別スヘシ

何資金有價証券臺帳
 ×印ハ二條ノ朱抹消線
 △印ハ朱書ナリ

年月日	摘要	種類	番 號	額 面	保 管 所	事 由
大正二年四月一日	前年度越高	四分利	い六六	百圓	日本銀行	
同日	同上	×四分利	×い六七	×百圓	×同上	大正二年五月一日賣却
△計			△二枚	△貳百圓		

大正二年五月一日	買 入	四分利	ろ五六	五十圓	何々銀行	金何程ヲ以テ何某ヨリ買入
△何 日	△賣 却	△四分利	×い六七	△百圓		△金何程ヲ以テ何某ニ賣却
△計			△二枚	△百五十圓		

備考

- 一、本帳簿ハ年度毎ニ改製スルヲ要セス
- 一、有價証券ハ壹枚毎ニ記載スルモノトス
- 一、當錢償還又ハ賣却シタルトキハ朱書ヲ以テ記載シ且ツ當該証書ノ欄ニ朱線二條ヲ引キテ抹消スルモノトス
- 一、本簿ハ成ルヘク壹冊トシ口座ヲ設ケテ區別スヘシ

● 神社財産登録及管理並會計ニ關スル件拔萃

(明治四十一年七月
内務省令十二號)

第三章 會計

第七條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 毎年度收入支出ノ豫算ヲ定メ母年二月末日マテニ府縣社ハ地方長官、

郷社以下ノ神社ハ北海道廳支廳長、札幌區、函館區、小樽區、島司、郡市長、
旭川區ニ在テハ區長、
大坂市ニ在
テハ區長

ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦全シ

第九條 收入支出ハ神職ノ職名ヲ以テ執行スヘシ

第十條 收入支出ハ帳簿ニ記入シ記入毎ニ神職檢印ヲ捺スヘシ

第十一條 支拂ハ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ受取證書アルニ非レハ之ヲ行フ
コトヲ得ス

第十二條 毎年度收支決算並資金明細書ハ翌年五月三十一日マテニ府縣社ハ地
方長官、郷社以下ノ神社ハ北海道廳支廳長、札幌區、函館區、小樽區、島司、郡

市長、
東京市、京都市、大
坂市ニ在テハ區長

ニ報告スヘシ

第十三條 毎年度社入金ノ百分ノ五以上ハ基本財産トシテ積立ツヘシ

第十四條 基本財産ハ其ノ神社維持ノ爲己ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ認
可ヲ受クルニ非レハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第十五條 基本財産ヨリ生スル收入ハ經費ニ充用スルコトヲ得

第十六條 基本財産ハ國債登録、公債證書其ノ他ノ確實ナル有價証券ト爲スカ
又ハ中央金庫、本支金庫、郵便官署、日本銀行ニ預入ルヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ土地ヲ買入又ハ前項以外ノ銀行
ニ預入若ハ其ノ他ノ管理方法ニ依ルコトヲ得

第十七條 有價証券ハ中央金庫、郵便官署、日本銀行、日本興業銀行ニ保管ヲ

委託スヘシ
特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項以外ノ管理方法ニ依ルコト
ヲ得

第十八條 從前積立タル資金ハ基本財産ニ編入スヘシ但シ特別ノ目的ヲ以テ積
立タルモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ整理スヘシ

第十九條 古社寺保存法ニ依リ下附セラレタル修理保存費ハ特別ニ整理スヘシ
第二十條 官國幣社ノ會計ニ關シテハ別ニ定ムルニ所依ル

(以下略)

● 徴兵旅費拂戻請求手續

(大正二年五月十六日
訓令第二十六號)

(沿革) 大正六年三月九日府訓令八號改正

一、拂戻請求書ハ旅行ノ目的ヲ同フスルモノ毎ニ調製シ金額ノ下ニ検査及入
營若クハ歸郷スヘキ事實ノ生シタル年月日ヲ記載スヘシ

但官命ニヨリ集合時刻ヲ定メラレタルモノハ其日時ヲ併記スヘシ

一、検査及入營旅費ノ拂戻請求書ニハ別ニ壹通ノ仕譯書(請求書下同文ニシ
テ末文「請求候也」
ノ四字)ヲ添附スヘシ

二、歸郷旅費ノ拂戻請求書ニハ左記書式ノ明細書ヲ添附スヘシ

(書式)

旅行明細書

一金何程也

歸郷旅費

内 譯

	陸路	里數	汽車賃	汽船賃	宿日數	夜數	料金	賄度	料金	何々	金額	債權者
	雜費	實費	實費	滞在	日當泊	料金	賄度	料金	何々	金額	債權者	住所氏名
一												
〇、〇〇〇												

右何年何月何日何地出發何驛ヨリ氣車搭乗車中泊何日何驛下車何地ヲ經テ歸著

等 右ノ通ニ候也

知 事 宛

年 月 日

何郡(市)何町村長

何 某 印

一、町村長ノ提出スル請求書ハ郡役所ヲ經由スヘシ
大正二年五月京都府訓令第二十六號ハ大正五年度限り之ヲ廢止ス

◎ 徴兵旅費拂戻請求ニ付注意事項

(大正六年三月九日六會一一四四號)
ヲ以テ内務部長ヨリ各郡長ヘ通牒)

本日京都府訓令第八號ヲ以テ徴兵旅費拂戻請求手續改定セラレ候ニ付テハ左記
各項注意候様區町村長ヘ周知セシメラレ度依命此段及通牒候也

- 一、市町村ニ於テ徴兵旅費ヲ繰替支辨シタル時ハ直ニ拂戻ノ請求ヲナスヘシ
- 一、用紙ハ半紙ヲ用フルコト
- 一、金額ハ改描塗抹セサルコト
- 一、若シ訂正ヲ要スル場合ハ全部朱線ヲ引キ右側ニ明瞭ニ改書スヘシ
- 一、債權者氏名ヲ別紙ニ記載スル場合ハ請求書毎ニ添附スヘシ
- 一、債權者ヨリ直接請求スル場合ハ大正二年内務省令第五號書式ニ準シ二通
(請求書及仕譯書)調製區役所又ハ町村役場ヲ經由シ提出セシメラレ度

● 公立學校職員俸給支給細則

(明治三十七年三月十八日 府令第七號)

(沿革) 明治三十七年府令第三五號、三十九年同第九號、四四年同第一二一號、大正三年同第七一號改正

第一條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル者
 (六週間現役ニアラサル現役ヲ除ク)ニシテ其俸給本職俸給
 ヨリ寔少ナルトキハ其不足額ハ本職俸給ヨリ之ヲ補給ス
 戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタル者及豫備後備ノ軍籍ニ
 アリテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲体職トナリ
 タル者ノ俸給ハ前項ニ準シ之ヲ給ス
 但特別ノ事情アリト認ムルトキハ相當減給スルコトアル
 一

● 利息制限法

(沿革) 明治三十一年六月法律第一一號改正

(明治十年九月十一日 太政官布告第六十六號)

利息制限法左ノ通り相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分チ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
 第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元
 金百圓以下ハ一ヶ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一
 割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁
 判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ

第三條 (削除)

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金捧利等ノ名
 目ヲ用ル者アルモ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルトキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金
 料料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁
 判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思料スルトキハ之
 ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

◎ 閏年ニ關スル件

(明治三十一年五月十一日勅令第九十號) 總文副署

朕閏年ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏トス但シ紀元年數ヨリ六百六十ヲ減シテ百ヲ以テ整除シ得ヘキモノ、中更ニ四ヲ以テ其商ヲ整除シ得サル年ハ平年トス

◎ 郵便貯金利子割合ノ件

(明治三十八年五月十八日) 遞大臣副署
勅令第百六十六號

(沿革) 明治三十九年一月勅令第一三號、四三年二月同第五號、大正元年一月同第五一號、四年三月同第三六號、同年八月同第一五八號改正

郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年四分八厘トス但シ朝鮮總督府、臺灣總督府及關東都督府所管原簿ニ登記シタル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年五分四毛トス
千圓以上ノ預入金ニ對シテハ主務官廳ハ命令ヲ以テ前項ノ利子ノ割合ヲ低減スルコトヲ得
振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ前二項ノ規定ニ拘ラス年三分六厘トス但シ十萬圓以上ノ貯金現在高ニ對シテハ主務官廳ハ命令ヲ以テ其ノ利子ノ割合ヲ低減シ又ハ之ニ利子ヲ付セサルコトヲ得

● 郵便官署ニ於テ購入及保管スヘキ證券ノ件

(沿革)

明治三十九年八月遞信省告示第三三九號、四一年七月同第六二號、同年一二月同第一三八四號、四三年三月同第三七〇號、大正二年一〇月同第七五二號、四年一月同第三四號改正
來七月一日以降郵便貯金規則ニ依リ郵便官署ニ於テ購入及保管スヘキ證券ノ種類左ノ如シ但シ無記名ニシテ拂込金完済ノモノニ限ル

- 軍事公債證書
- 大日本帝國政府五分利公債証書
- 國庫債
- 勸業債
- 特別大日本帝國政府五分利公債証書
- 貯蓄債
- 大日本帝國政府四分利公債証書
- 拓殖債
- 日本興業銀行債券

● 全上料金ノ件

(郵便貯金規則拔萃)

第八十四條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ證券種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十五條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スヘキ證券ノ價格ハ遞信大臣大藏大臣ト協議シ時價ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ日本勸業銀行ヨリ其賣出中ニ係ル勸業債券ヲ購入スル場合ハ其ノ發行價格ニ依ル

第八十六條 証券ノ購入保管及賣却ニ關スル料金左ノ如シ

- 一、証券ノ購入又ハ賣却料金但シ賣出中ニ係ル勸業債券ノ購入料金ハ一枚ニ付金五錢トス
- 五圓券 一枚ニ付 五錢
- 十圓券 全 八錢
- 二十圓券 一枚ニ付 十錢
- 二十五圓券 一枚ニ付 十錢

五十圓券	一枚ニ付	十五錢
百圓券	全	二十五錢
五百圓券	全	八十五錢
千圓券	全	一圓六十錢

額面千圓以上ノ債券ニ對シテハ千圓迄ヲ加フル毎ニ一圓五十錢ヲ加フ

二、証券保管料金

- イ、預ケ人ノ貯金ヲ以テ証券ヲ購入シ之ヲ保管スル場合ハ保管ノ時ヨリ遞次利子渡期ニ於テ証券一枚ニ付一錢ヲ徵收ス但シ國債証券ニ對シテハ本料金ヲ徵收セス
- ロ、預ケ人ノ所有ニ係ル証券ヲ保管スル場合ハ前號ノ規定ニ依ルノ外其ノ保管請求ノ際左ノ料金ヲ徵收ス但シ公共團體又ハ神社ヨリ其ノ所有ニ係ル証券ノ保管ヲ請求スル場合ニ於テハ本料金ヲ徵收セス

五十圓券	一枚ニ付	三錢
------	------	----

二十圓券	一枚ニ付	五錢
二十五圓券	一枚ニ付	五錢
五十圓券	全	十錢
百圓券	全	十五錢
五百圓券	全	三十五錢
千圓券	全	六十錢

額面千圓以上ノ債券ニ對シテハ千圓迄ヲ加フル毎ニ五十錢ヲ加フ

第八十六條ノ二 証券保管料金ハ保管請求ノ際納付ヲ要スルモノヲ除クノ外當該証券利子渡期ニ於テ其ノ利子金又ハ預ケ人ノ貯金ヨリ控除徵收ス

第八十七條 郵便官署ニ於テ購入スル証券ノ代金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ拂出シ保管ニ係ル證書ノ利子償還金及賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入ル
貯金ニ組入レタル証券利子ハ預ケ人ヨリ元加利子ノ記入又ハ檢閲ヲ受クル爲通帳ヲ提出シタルトキ貯金原簿所管廳ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス

● 行旅病人行旅死亡人取扱心得

(明治三十二年六月)
(府訓令一四二號)

(沿革) 明治四十五年訓令一〇號改正

第一條 行旅病人アルトキハ市區町村長ハ醫師ノ診斷ヲ經テ相當ノ救護ヲ爲スヘシ

前項ノ病人ニシテ負傷又ハ行倒等ニ係リ檢視ヲ要スルモノト認ムルトキハ直ニ警察官ニ通報スヘシ

第二條 被救護者ノ取引ヲ爲サシムルカ爲メ發スル通知中被救護者ノ狀況ハ第四號書式ニ依リ尙第五號書式ノ診斷書寫ヲ添附スヘシ

第三條 被救護者ノ取引ヲ爲ス者無ク又其住所府縣無キトキ及住所地府縣分明ナラサルトキハ前條ニ準シテ當廳ニ届出テ引續キ救護ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其病症ノ狀況ニ注意シ旅行セシメ差支無シト認ムルトキハ醫師ノ診斷ヲ經テ其救護ヲ止ムヘシ

第四條 本府ニ住所ヲ有シ他ノ市町村ニ在ル被救護者ニシテ扶養義務者若クハ家族無キトキ又ハ分明ナラサルトキ其他取引ヲ爲ス者無キトキハ被救護者住所地ノ市區町村長其取引ヲ掌ルヘシ

第五條 行旅死亡人アルトキハ市區町村長ハ醫師ノ檢案ヲ經テ之カ取扱ヲ爲スヘシ

前項ノ死亡人ニシテ變死ニ係リ檢視ヲ要スルモノト認ムルトキハ醫師ノ檢案ヲ須タス直ニ警察官ニ通報スヘシ

但檢視了ノ死亡人ヲ引受ケタルトキハ檢視調書若クハ其要領ノ謄本ヲ以テ醫師ノ檢案書ニ代フヘシ

第六條 行旅死亡人ノ狀況相貌等ニ關シテハ第四號書式ニ準シ其認識シ得タル事項ヲ記録スヘシ

死亡人ノ住所居所若クハ氏名知レサルトキナスヘキ告示及公告ハ第六號書式ニ依ルヘシ

死亡人ノ住所若クハ居所及氏名知レタルトキ發スル通知ニハ第一項ノ記録及
檢案書ヲ添附スヘシ

第七條 行旅病人行旅死亡人及其同伴者ノ救護著クハ取扱ニ關スル費用ハ左ノ
限度ニ依ルヘシ

- 一、診察料 一回ニ付 貳拾五錢 以內
- 二、手術料 實費
- 三、醫師旅費日當

特ニ必要ナル場合ニ限り左ノ金額ヲ給スルコトヲ得
但往復三里未滿ハ日當ヲ給セス

- 四、診斷書料 金貳拾錢 以內
- 五、日當 一日ニ付 金五拾錢 以內
- 車馬賃 一里ニ付 金拾五錢 以內
- 宿泊料 一夜ニ付 金八拾錢 以內

五、藥價(内外用各一日分)

金拾錢 以內

特ニ高價ノ藥品ヲ要シ此限度ヲ超過セシトキハ其事由ヲ明示スヘシ
六、療養ニ要スル必要品費 實費

七、食料(一日三食) 一食ニ付 金四錢 以內

八、看護人費(一人) 一晝夜ニ付 金參拾錢 以內

九、番人費(一人) 一日ニ付 金貳拾錢 以內
一夜ニ付 金參拾錢 以內

必要ナル場合ニ限ル最モ人家遠隔ノ場所ニ於テハ夜間ニ限り一人ヲ増スコ
トヲ得

十、被服費

必要ナル場合ニ限り左ノ金額ヲ以テ給スルコトヲ得
但帶ハ著衣金額ノ内ヲ以テ支辨スヘシ

綿 入

金九十錢 以内

裕

金六十錢 以内

單 衣

金四十錢 以内

十一、寢 具 料

一晝夜ニ付 金四錢 以内

蚊帳ヲ要スルトキ又ハ極寒ノ際ハ一夜ニ付金貳錢以内ヲ増スコトヲ得
但シ借入ル、コト能ハサルトキハ蒲團代價總額金壹圓貳拾錢以内

枕金五錢以内蚊帳金壹圓以内ヲ以テ買入ル、コトヲ得

十二、病人、死亡人ノ爲メ特ニ要スル薪炭油費

一晝夜ニ付 金五錢 以内

極寒ノ際ハ金貳錢以内ヲ増スコトヲ得

十三、入 院 料

實 費

其病院所定ノ最低價ニ依ル

十四、借 家 料

一晝夜ニ付 金六錢 以内

十五、小屋 掛 料

一箇 金壹圓五拾錢 以内

借受クヘキ家屋無キ場合ニ限ル

十六、護送及運搬ニ關スル諸費

實 費

假土葬ニ關スル費用ヲ包含セス

十七、死體檢案料及檢案書料

金五十錢 以内

警察官ノ檢視ヲ受ケサル場合ニ限ル

十八、假土葬ニ關スル諸費

金貳圓五十錢

京都市ニ在テハ金五十錢ヲ増スコトヲ得

十九、基 標 費

金十錢 以内

二十、公告料(地方新聞紙上一回)

實 費

二十一、送還ニ關スル諸費

宿泊料(被救護者送還人)

一夜ニ付 金四十錢 以內

晝食料(同)

一回ニ付 金八錢 以內

氣車氣船解艇賃(同)

最低價實費

送還人手當

一人一日ニ付 金參十五錢 以內

被救護者ノ爲メ車馬賃ヲ要スルトキハ第十六號ノ費目ヲ以テ之ヲ給ス可シ
被服寢具ヲ買入レ若ハ小屋掛ヲ爲シタル場合ニ於テ救護ヲ了リ不用ニ屬ス
ルトキハ之ヲ賣却シ費用償還ノ一部ニ充ツヘシ

第八條 行旅病人及其同伴者ノ救護ヲ公私ノ施設若クハ私人ニ委託スル場合ニ
於テ其資料及費用ヲ要スルモノハ前條ノ限度ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第九條 行旅死亡人取扱費用ヲ辨償スルカ爲メ其遺留物件ヲ賣却スル場合ニ於
テ有價証券及見積價格拾圓未満ノ物件ハ競賣ニ附セスシテ之ヲ處分スルコト
ヲ得

第十條 行旅病人行旅死亡人及其同伴者ノ救護若クハ取扱ニ要シタル費用ニシ
テ本府ノ負擔ニ歸スルトキハ第二號乃至第六號書式ノ書類、正當受取人ノ領

收証書及其他ノ關係書類ヲ添附シ第一號書式ノ請本書ヲ差出スヘシ

第十一條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

明治二十七年本府訓令第二百二十五號行旅死亡人及行旅病人取扱心得ハ本令施行
ノ日ヨリ廢止ス (書式畧)

◎ 內國旅費規則拔萃

(明治四十三年六月
勅令二七四號)

- 第一條 官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當及移轉料ノ八種トシ別表ニ定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リテ之ヲ支給ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル
- 第三條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス
- 鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス
- 第四條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス
- 水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲サ、ルトキハ食卓料ヲ支給ス
- 第五條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ム

- テ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス
- 第六條 赴任ノ場合ニ於テハ別ニ移轉料及舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル鐵道賃、船賃及車馬賃ノ額ニ相當スル赴任手當ヲ支給ス
- 第十一條 新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條 鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ各其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス
- 通算上一哩、一海里又ハ一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

◎ 民勢調査ヲ拒ミ妨害スル者處罰ノ件

(明治四十一年八月
內務省令十五號)

市町村ニ於テ條例ヲ定メ民勢ノ調査ヲ爲スニ當リ故意ニ申告ヲ拒ミ若ハ虚偽ノ申告ヲ爲シ又ハ其調査ヲ忌避シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
虚説造言ヲ放チ偽計威力ヲ用ヒテ調査ヲ妨害スル者亦同シ

大正六年四月十日印刷
大正六年四月十五日發行

定價金參拾五錢

編輯者

京都府加佐郡舞鶴町字北田邊

小倉瀧藏

印刷者兼
發行者

京都府加佐郡舞鶴町字北田邊

田中勝藏

印刷所

京都府加佐郡舞鶴町字北田邊

田中活版所

明陽河 田中 山 河

京陽河 田中 山 河

明陽河 田中 山 河

京陽河 田中 山 河

明陽河 田中 山 河

京陽河 田中 山 河

大五六等四日十五日發行

大五六等四日十五日發行

五附金參併五附

終